

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年10月11日
【四半期会計期間】	第18期第2四半期（自 平成25年6月1日 至 平成25年8月31日）
【会社名】	株式会社ランド
【英訳名】	LAND Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 松谷 昌樹
【本店の所在の場所】	神奈川県横浜市西区北幸一丁目11番5号
【電話番号】	045(345)7778
【事務連絡者氏名】	常務取締役管理部長 佐瀬 雅昭
【最寄りの連絡場所】	神奈川県横浜市西区北幸一丁目11番5号
【電話番号】	045(345)7778
【事務連絡者氏名】	常務取締役管理部長 佐瀬 雅昭
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第17期第2四半期 連結累計期間	第18期第2四半期 連結累計期間	第17期
会計期間	自平成24年3月1日 至平成24年8月31日	自平成25年3月1日 至平成25年8月31日	自平成24年3月1日 至平成25年2月28日
売上高(千円)	4,757,943	1,696,464	7,898,388
経常利益又は経常損失( )(千円)	54,813	454,788	330,283
当期純利益又は四半期純損失( )(千円)	725,336	1,068,869	578,254
四半期包括利益又は包括利益(千円)	725,336	1,068,869	578,254
純資産額(千円)	328,357	560,192	1,629,062
総資産額(千円)	12,107,670	3,205,282	10,259,061
1株当たり当期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額( )(円)	2.55	3.51	1.96
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	2.7	17.5	15.9
営業活動によるキャッシュ・フロー(千円)	239,233	247,421	395,466
投資活動によるキャッシュ・フロー(千円)	495,653	14,541	939,741
財務活動によるキャッシュ・フロー(千円)	542,549	27,091	982,664
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高(千円)	1,026,063	160,465	395,337

回次	第17期第2四半期 連結会計期間	第18期第2四半期 連結会計期間
会計期間	自平成24年6月1日 至平成24年8月31日	自平成25年6月1日 至平成25年8月31日
1株当たり四半期純損失金額( )(円)	0.32	7.00

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3 第17期第2四半期連結累計期間及び第18期第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失金額であるため記載しておりません。

4 第17期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## 2【事業の内容】

### (1)事業内容の重要な変更

当第2四半期連結累計期間において、シニア事業を営んでおります株式会社ランドネクサスの全株式を株式会社ネクサスからの質権行使請求に伴い譲り渡したことにより、平成25年5月31日をみなし売却日として連結の範囲から除外しております。

### (2)主要な関係会社の異動

「(1)事業内容の重要な変更」に記載のとおり、当第2四半期連結累計期間において株式会社ランドネクサスは連結子会社ではなくなりました。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更があった事項は、次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

提出会社が将来にわたって事業活動を継続するとの前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況その他提出会社の経営に重要な影響を及ぼす事象

当社グループは、当第2四半期連結累計期間において、貸借対照表の量的改善及び有利子負債の削減による支払利息等の軽減、業績回復に向けたレジデンシャル事業における新規案件の開発等、グループ一丸となって事業を展開してまいりました。

当第2四半期連結累計期間においては、平成25年4月17日付で株式会社ネクサスが質権を行使し、当社の有していた株式会社ランドネクサスの全発行済株式を取得したことにより、関係会社株式売却益を計上することとなったものの、貸借対照表の量的改善を目的とした保有固定資産の処分等を行う中で、減損損失等を計上した結果、1,068百万円の四半期純損失を計上することとなりました。

また、依然として既存のプロジェクト資金等については、物件の販売スケジュールに合わせて返済条件の見直しを行うことにつき、取引金融機関等にご協力をお願いしている状態であります。

以上のような状況により、当社グループには、将来にわたって事業活動を継続するとの前提に疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

#### (1) 経営成績の分析

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、新たな経済政策への期待から円高是正や株価回復が進み、景況感には改善の動きが見られたものの、実体経済への反映には至らず、依然として景気の先行きは不透明な状況で推移いたしました。

このような環境下において、当社グループは「豊かで快適な暮らしの創造」を企業理念とし、早期の業績の回復に向けて、最大限の努力を継続してまいりました。

当第2四半期連結累計期間におきましては、平成25年4月17日付けで株式会社ネクサスから質権行使請求を受けたことに伴い、当社が保有する株式会社ランドネクサスの全株式を譲り渡したことにより、第1四半期連結会計期間末をみなし売却日として、株式会社ランドネクサスを連結の範囲から除外いたしました。

また、損益面においては、貸借対照表の量的改善を目的とした保有固定資産の処分等を行う中で、減損損失を計上することとなりました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は1,696百万円(前年同期比64.3%減)、営業損失388百万円(前年同期は170百万円の営業利益)、経常損失454百万円(前年同期は54百万円の経常利益)、四半期純損失1,068百万円(前年同期は725百万円の四半期純損失)となりました。

なお、当社グループの売上高のうち、レジデンシャル事業においては、通常の営業形態として物件の引渡時に売上が計上されるため、その引渡時期により四半期ごとの売上高に偏りが生じる場合があります。

セグメント別の業績の概況は次のとおりであります。

#### (レジデンシャル事業)

レジデンシャル事業におきましては、マンションの引渡しによる手数料売上及びその他の収入を計上した結果、売上高は471百万円(前年同期比81.2%減)となり、前第2四半期連結累計期間に比べ2,033百万円の減収となりました。

また、営業損失は368百万円(前年同期は89百万円の営業利益)となりました。

これは、分譲マンションにおける販売形態が、自社分譲から販売代理手数料等の手数料収入を主体とした事業形態に変わったことによるものであります。

#### (アセット・ソリューション事業)

アセット・ソリューション事業におきましては、収益不動産の賃料収入及びその他の収入を計上した結果、売上高は66百万円(前年同期比20.6%増)となり、前第2四半期連結累計期間に比べ11百万円の増収となりました。

また、営業損失は16百万円(前年同期は42百万円の営業損失)となりました。

#### (シニア事業)

シニア事業におきましては、シニア事業を営んでおります株式会社ランドネクサスの全株式を株式会社ネクサスからの質権行使請求に伴い譲り渡したことにより、第1四半期連結会計期間末をみなし売却日として連結の範囲から除外しております。

当第2四半期連結累計期間においては、第1四半期連結会計期間末までの損益計算書についてのみ連結しております。第1四半期連結会計期間末までの売上高は1,158百万円、営業損失は11百万円であります。

#### (2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末における総資産は前連結会計年度末に比べ7,053百万円減少し、3,205百万円となりました。

また、当第2四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べ5,984百万円減少し、2,645百万円となりました。

これは、平成25年4月17日付けで株式会社ネクサスから質権行使請求を受けたことに伴い、当社が保有する株式会社ランドネクサスの全株式を譲り渡したことにより、第1四半期連結会計期間末をみなし売却日として、株式会社ランドネクサスを連結の範囲から除外することとなったため、株式会社ランドネクサスにおける資産および負債が連結対象外となったこと及び当該取引により有利子負債が減少したことに加え、保有物件の売却に伴う資産の減少や減損損失を計上したこと等の資産の減少によるものであります。

それらの結果、当第2四半期連結会計期間末における純資産は、560百万円となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ234百万円の減少となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果支出した資金は、247百万円となりました。これは主に税金等調整前四半期純損失の計上等によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果支出した資金は14百万円となりました。これは主に有形固定資産の売却に伴う収入及び連結の範囲の変更を伴う関係会社株式の売却による支出等によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果得られた資金は27百万円となりました。これは主に借入金の借入によるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

(6) 従業員数

シニア事業を営んでおります株式会社ランドネクサスの全株式を株式会社ネクサスからの質権行使請求に伴い譲り渡したことにより、第1四半期連結会計期間末をみなし売却日として連結の範囲から除外いたしました。

これにより、前連結会計年度末に比べ、シニア事業における従業員数が377名（臨時従業員数は、181名）減少しております。

(7) 主要な設備

シニア事業を営んでおります株式会社ランドネクサスの全株式を株式会社ネクサスからの質権行使請求に伴い譲り渡したことにより、第1四半期連結会計期間末をみなし売却日として連結の範囲から除外いたしました。

これにより、前連結会計年度末に比べ、シニア事業の主要な設備が減少しております。

(8) 事業等のリスクに記載した重要事象等についての分析・検討内容及び当該重要事象等を解消し、又は改善するための対応策

事業等のリスクに記載の通り、当社グループには、将来にわたって事業活動を継続するとの前提に疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しておりますが、下記施策の実施により、当該状況の大幅な改善を実現できると考えております。

得意とするレジデンシャル事業への資源集中

当社が得意とする住宅用不動産、特にマンション分譲業務に関しましては、当社の資金流出を極力抑えた共同事業方式により開発を進めてまいりる所存であり、今後は、得意とする神奈川及び武蔵野エリアに特化して、優良な物件のみを厳選し、強みである仕入情報ネットワークを駆使し、得意とする企画力により、エリアニーズに適合した「売れるマンション（＝良いもの）」のみをマーケット環境に応じた展開をしてまいります。

また、入手した案件情報を活用し、これまで培ってきたノウハウにより、仲介手数料やコンサルティングフィーを獲得する事業や、取得した土地にマンション事業を企画し、資金力のある大手デベロッパー等に事業主の地位を譲渡することによりフィーを獲得する等、得意とする住宅用不動産の分野への資源集中を行ってまいります。

債務の圧縮

既存のプロジェクト資金等につきましては、物件の販売スケジュールに合わせて返済条件の見直しを行うことにつき、取引金融機関および建設会社にご協力をいただいております。見直し後の返済条件に従い支払いを行っております。

また、債務の圧縮につきましては、担保物件の処分も含め、債権者である金融機関等と個別に協議しながら進めてまいります。

#### 株主価値を棄損しない資金調達の実施

当社グループは、得意とする分譲マンションの開発においては、物件の仕入れと販売力には定評があるものと自負しており、今後の収益を確保できる体制を構築できていると考えていることから、必要に応じた資金の調達を行うことができれば、成長路線に戻せると確信しております。

今後は、引き続き様々な調達手法を検討し、株主価値を最大限に高める最適な手法により適宜必要な資金を調達してまいり所存であります。

また、上記施策に加え、既に実施しております人員配置の適正化や販売費及び一般管理費をはじめとした固定費の削減を引き続き徹底することにより、支出の抑制に努めてまいります。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	1,219,995,600
計	1,219,995,600

##### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成25年8月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成25年10月11日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	304,998,900	304,998,900	東京証券取引所 市場第一部	株主としての権利内容に制限 のない標準となる株式であ り、単元株式数は100株であ ります。
計	304,998,900	304,998,900		

(注) 普通株式のうち、32,415千株については、債権(金銭債権1,195,993千円)の現物出資(デット・エクイティ・スワップ)により発行されたものであります。

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金 増減額 (千円)	資本金 残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成25年6月1日～ 平成25年8月31日	-	304,998,900	-	6,526,123	-	6,290,843

(6)【大株主の状況】

平成25年8月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式総 数に対する所 有株式数の割 合(%)
高橋 和男	埼玉県狭山市	6,700,000	2.19
株式会社ランドコーポレーション	神奈川県横浜市神奈川区栄町6-1	4,356,000	1.42
斉藤 好道	愛知県岡崎市	4,180,000	1.37
松谷 昌樹	神奈川県横浜市神奈川区	3,870,000	1.26
エイチエスピーシー トラスティー(ホン コン)リミテッド アカウト ジーダブ リュウエス 046-002234-001 常任代理人 香港上海銀行東京支店	東京都中央区日本橋三丁目11番1号	3,000,000	0.98
日本証券金融株式会社	東京都中央区日本橋茅場町1丁目2番10号	2,525,600	0.82
中脇 禮次	大阪府八尾市	1,517,000	0.49
星野 宗広	福岡県田川郡川崎町	1,492,100	0.48
バンク オブ ニューヨーク ジーシーエ ム クライアント アカウト ジェイ ピーアールデイ アイエスジー エフイー - エイシー 常任代理人 株式会社三菱東京UFJ銀 行	東京都千代田区丸の内2丁目7番1号	1,347,830	0.44
西ノ谷 菊雄	埼玉県川越市	1,300,000	0.42
計		30,288,530	9.93

(7) 【議決権の状況】  
【発行済株式】

平成25年8月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 247,900		株主としての権利内容に制限のない標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 304,749,300	3,047,493	同上
単元未満株式	普通株式 1,700		
発行済株式総数	304,998,900		
総株主の議決権		3,047,493	

【自己株式等】

平成25年8月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社ランド	神奈川県横浜市西区北幸 一丁目11番5号	247,900		247,900	0.08
計		247,900		247,900	0.08

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成25年6月1日から平成25年8月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成25年3月1日から平成25年8月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、監査法人元和による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】  
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年8月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	395,337	160,465
売掛金	863,886	351,023
販売用不動産	-	161,254
仕掛販売用不動産	388,930	-
前渡金	377,709	366,889
その他	333,485	94,333
貸倒引当金	1,620	1,959
流動資産合計	2,357,730	1,132,007
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	1,284,232	233,252
減価償却累計額	364,813	104,473
建物及び構築物(純額)	919,419	128,779
土地	3,511,290	1,612,854
その他	2,025,081	55,400
減価償却累計額	504,206	47,494
その他(純額)	1,520,874	7,905
有形固定資産合計	5,951,584	1,749,538
無形固定資産	14,580	3,236
投資その他の資産		
投資有価証券	34,541	34,528
その他	1,900,727	286,067
貸倒引当金	103	96
投資その他の資産合計	1,935,166	320,499
固定資産合計	7,901,331	2,073,274
資産合計	10,259,061	3,205,282
<b>負債の部</b>		
流動負債		
短期借入金	1,354,939	676,225
1年内返済予定の長期借入金	1,964,534	1,235,283
未払金	509,089	172,379
1年内償還予定入居一時金預り金	623,789	-
引当金	97,719	29,197
未払法人税等	142,297	163,544
その他	921,289	364,460
流動負債合計	5,613,660	2,641,090

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年8月31日)
<b>固定負債</b>		
長期入居一時金預り金	1,392,153	-
その他	1,624,184	3,999
固定負債合計	3,016,337	3,999
<b>負債合計</b>		
	8,629,998	2,645,089
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	6,526,123	6,526,123
資本剰余金	6,290,843	6,290,843
利益剰余金	10,747,700	11,816,570
自己株式	440,204	440,204
株主資本合計	1,629,062	560,192
<b>純資産合計</b>		
	1,629,062	560,192
<b>負債純資産合計</b>	10,259,061	3,205,282

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年8月31日)
売上高	4,757,943	1,696,464
売上原価	3,693,991	1,501,346
売上総利益	1,063,952	195,117
販売費及び一般管理費	<sup>1</sup> 893,507	<sup>1</sup> 583,624
営業利益又は営業損失( )	170,444	388,506
営業外収益		
受取利息	8,532	7,287
受取手数料	4,819	6,301
賃貸収入	5,557	2,837
匿名組合投資利益	33,012	-
その他	7,721	4,135
営業外収益合計	59,644	20,561
営業外費用		
支払利息	169,792	83,028
その他	5,482	3,815
営業外費用合計	175,274	86,844
経常利益又は経常損失( )	54,813	454,788
特別利益		
関係会社株式売却益	-	1,433,888
債務免除益	537,969	-
その他	390	780
特別利益合計	538,359	1,434,668
特別損失		
減損損失	493,136	1,934,389
投資有価証券評価損	782,286	-
その他	296	42,789
特別損失合計	1,275,720	1,977,179
税金等調整前四半期純損失( )	682,547	997,299
法人税、住民税及び事業税	8,821	71,570
法人税等調整額	33,967	-
法人税等合計	42,788	71,570
少数株主損益調整前四半期純損失( )	725,336	1,068,869
四半期純損失( )	725,336	1,068,869

【四半期連結包括利益計算書】  
【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年8月31日)
少数株主損益調整前四半期純損失( )	725,336	1,068,869
四半期包括利益	725,336	1,068,869
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	725,336	1,068,869
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年8月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純損失( )	682,547	997,299
減価償却費	115,479	57,810
減損損失	493,136	1,934,389
投資有価証券評価損益( は益)	782,286	-
債務免除益	537,969	-
支払利息	169,792	83,028
入居一時金預り金の増減額( は減少)	303,602	37,559
関係会社株式売却損益( は益)	-	1,433,888
たな卸資産の増減額( は増加)	36,521	227,830
未払金の増減額( は減少)	140,870	186,742
共同事業未払金の増減額( は減少)	579,949	-
前受金の増減額( は減少)	553,698	12,283
その他	507,999	182,297
小計	339,423	173,527
利息及び配当金の受取額	8,669	6,630
利息の支払額	99,452	57,266
法人税等の支払額	9,407	23,258
営業活動によるキャッシュ・フロー	239,233	247,421
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	872,434	195,351
有形固定資産の売却による収入	1,380,500	232,740
連結の範囲の変更を伴う関係会社株式の売却による支出	-	55,849
その他	12,412	3,919
投資活動によるキャッシュ・フロー	495,653	14,541
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額( は減少)	468,734	-
長期借入れによる収入	-	50,000
長期借入金の返済による支出	680,623	15,482
株式の発行による収入	696,853	-
その他	90,045	7,426
財務活動によるキャッシュ・フロー	542,549	27,091
現金及び現金同等物の増減額( は減少)	192,336	234,872
現金及び現金同等物の期首残高	833,726	395,337
現金及び現金同等物の四半期末残高	<sup>1</sup> 1,026,063	<sup>1</sup> 160,465

### 【継続企業の前提に関する事項】

当社グループは、当第2四半期連結累計期間において、貸借対照表の量的改善及び有利子負債の削減による支払利息等の軽減、業績回復に向けたレジデンシャル事業における新規案件の開発等、グループ一丸となって事業を展開してまいりました。

当第2四半期連結累計期間においては、平成25年4月17日付で株式会社ネクサスが質権を行使し、当社の有していた株式会社ランドネクサスの全発行済株式を取得したことにより、関係会社株式売却益を計上することとなったものの、貸借対照表の量的改善を目的とした保有固定資産の処分等を行う中で、減損損失等を計上した結果、1,068百万円の四半期純損失を計上することとなりました。

また、当第2四半期連結会計期間末時点においては、依然として既存のプロジェクト資金等については、物件の販売スケジュールに合わせて返済条件の見直しを行うことにつき、取引金融機関等にご協力をお願いしている状態であります。

以上のような状況により、当社には、将来にわたって事業活動を継続するとの前提に疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

しかしながら、下記施策の確実な実行により、早期に大幅な改善が実現できると考えております。

#### (1) 得意とするレジデンシャル事業への資源集中

当社が得意とする住宅用不動産、特にマンション分譲業務に関しましては、当社の資金流出を極力抑えた共同事業方式により開発を進めてまいり所存であり、今後は、得意とする神奈川及び武蔵野エリアに特化して、優良な物件のみを厳選し、強みである仕入情報ネットワークを駆使し、得意とする企画力により、エリアニーズに適合した「売れるマンション(=良いもの)」のみをマーケット環境に応じた展開をしてまいります。

また、入手した案件情報を活用し、これまで培ってきたノウハウにより、仲介手数料やコンサルティングフィーを獲得する事業や、取得した土地にマンション事業を企画し、資金力のある大手デベロッパー等に事業主の地位を譲渡することによりフィーを獲得する等、得意とする住宅用不動産の分野への資源集中を行ってまいります。

#### (2) 債務の圧縮

既存のプロジェクト資金等につきましては、物件の販売スケジュールに合わせて返済条件の見直しを行うことにつき、取引金融機関および建設会社にご協力をいただいております。見直し後の返済条件に従い支払いを行っております。

また、債務の圧縮につきましては、担保物件の処分も含め、債権者である金融機関等と個別に協議しながら進めてまいります。

#### (3) 株主価値を棄損しない資金調達の実施

当社グループは、得意とする分譲マンションの開発においては、物件の仕入力と販売力には定評があるものと自負しており、今後の収益を確保できる体制が構築できていると考えていることから、必要に応じた資金の調達を行うことができれば、成長路線に戻せると確信しております。

今後は、引き続き様々な調達手法を検討し、株主価値を最大限に高める最適な手法により適宜必要な資金を調達してまいり所存であります。

また、上記施策に加え、既の実施しております人員配置の適正化や販売費及び一般管理費をはじめとした固定費の削減を引き続き徹底することにより、支出の抑制に努めてまいります。

しかしながら、不動産市場のさらなる悪化等により資産の売却やレジデンシャル事業が計画のとおりに進まない可能性があること、また、金融機関との返済条件の見直し交渉や資金調達につきましても関係者との協議を行いながら進めている途上であること、資金調達面においては株式市場並びに当社株価等の状況に影響されること等により、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、四半期連結財務諸表は継続企業を前提に作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期連結財務諸表には反映しておりません。

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

(連結の範囲の重要な変更)

当第2四半期連結累計期間において、シニア事業を営んでおります株式会社ランドネクサスの全株式を株式会社ネクサスからの質権行使請求に伴い譲り渡したことにより、第1四半期連結会計期間末をみなし売却日として連結の範囲から除外しております。

このため、当第2四半期連結累計期間においては、第1四半期連結会計期間末までの損益計算書及びキャッシュ・フロー計算書についてのみ連結しております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

該当事項はありません。

(四半期連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年8月31日)
従業員給料及び手当	263,417千円	181,298千円
支払手数料	130,204	96,220

2 前第2四半期連結累計期間(自平成24年3月1日至平成24年8月31日)及び当第2四半期連結累計期間(自平成25年3月1日至平成25年8月31日)

当社の主要事業でありますレジデンシャル事業においては、通常の営業形態として物件の引渡時に売上が計上されるため、その引渡時期により四半期ごとの売上高に偏りが生じる場合があります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の四半期末残高は、四半期連結貸借対照表の現金及び預金と同額であります。

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成24年3月1日至平成24年8月31日)

1. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

該当事項はありません。

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

該当事項はありません。

2. 株主資本の金額の著しい変動

当社は、平成24年5月2日付で、ジェイウイング・キャピタル株式会社を割当先とした第三者割当による新株式の発行を行ったことにより、前連結会計年度末に比べ、資本金が349,999千円、資本準備金が349,999千円増加し、当第2四半期連結会計期間末においては、資本金が6,526,123千円、資本準備金が6,290,843千円となっております。

当第2四半期連結累計期間(自平成25年3月1日至平成25年8月31日)

1. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

該当事項はありません。

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

該当事項はありません。

2. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成24年3月1日至平成24年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	レジデンシャル事業	アセット・ソリューション事業	シニア事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	2,504,578	55,336	2,198,028	4,757,943		4,757,943
セグメント間の 内部売上高又は振替高		144		144	(144)	
計	2,504,578	55,480	2,198,028	4,758,087	(144)	4,757,943
セグメント利益 又は損失( )	89,716	42,369	115,980	163,327	7,117	170,444

(注)1 セグメント利益又は損失( )の調整額7,117千円は、セグメント間取引消去によるものであります。

2 セグメント利益又は損失( )は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に関する重要な減損損失)

「アセット・ソリューション事業」において、保有している固定資産の一部について、当社の経営課題である債務圧縮を目的とした処分を行ったことから、第17期第1四半期連結累計期間末において、当該固定資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、減少額を減損損失として493,136千円を計上しております。

なお、当該固定資産については、当第2四半期連結会計期間において、売却が完了しております。

当第2四半期連結累計期間(自平成25年3月1日至平成25年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	レジデンシャル事業	アセット・ソリューション事業	シニア事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	471,504	66,752	1,158,207	1,696,464		1,696,464
セグメント間の 内部売上高又は振替高		72		72	(72)	
計	471,504	66,824	1,158,207	1,696,536	(72)	1,696,464
セグメント利益 又は損失( )	368,112	16,202	11,332	395,647	7,141	388,506

(注)1 セグメント利益又は損失( )の調整額7,141千円は、セグメント間取引消去によるものであります。

2 セグメント利益又は損失( )は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

「シニア事業」を営んでおります株式会社ランドネクサスの全株式を株式会社ネクサスからの質権行使請求に伴い譲り渡したことにより、シニア事業における資産が前連結会計年度末に比べ、5,643,794千円減少しております。

また、「アセット・ソリューション事業」において、保有している固定資産の一部について、当社の経営課題である債務圧縮を目的とした処分を行ったことから、当第2四半期連結累計期間において、当該固定資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、減少額を減損損失として1,934,389千円を計上しております。

( 1 株当たり情報 )

1 株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 平成24年 3 月 1 日 至 平成24年 8 月31日 )	当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成25年 3 月 1 日 至 平成25年 8 月31日 )
(1) 1 株当たり四半期純損失金額 ( )	2円55銭	3円51銭
(算定上の基礎)		
四半期純損失金額 ( ) (千円)	725,336	1,068,869
普通株主に帰属しない金額 (千円)	-	-
普通株式に係る四半期純損失金額 ( ) (千円)	725,336	1,068,869
普通株式の期中平均株式数 (株)	284,591,131	304,750,903
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

(注) 前第 2 四半期連結累計期間及び当第 2 四半期連結累計期間の潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの 1 株当たり四半期純損失金額であるため記載しておりません。

(重要な後発事象)

平成25年 9 月 6 日開催の取締役会において、連結子会社である株式会社エル・イー・ソリューションズ(以下「LAS」といいます。)の株式の異動に関して、承認することを決議致しました。

当社は証券取引等監視委員会及び神奈川県警(以下「当局」といいます。)による調査を受けております。

このような中で、当局の調査やそれに付随したマスコミ報道に起因して、多大なる風評被害が生じており、当社の子会社である LAS においても、その影響が顕著でありました。

そのため、LAS の代表者であります五十川和彦氏より、全株式を買い取りたい旨の要請があり、当社といたしましても、当社が LAS に対して負担する債務の整理が進むことにより当社単体での債務圧縮が進み、また、LAS が事業を継続していくためには、当該要請に応えることが当社と LAS の両社にとって有用であることから、LAS の全株式を同氏へ譲渡することといたしました。

「株式の異動の概要」

子会社及び譲渡先の名称及び事業の内容

対象子会社名 : 株式会社エル・イー・ソリューションズ(事業の内容: レジデンシャル事業およびアセット・ソリューション事業)

譲渡先 : 五十川和彦(株式会社エル・イー・ソリューションズ代表取締役)

譲渡を行う主な理由

上記参照

株式の異動日

平成25年 9 月 6 日

法的形式を含むその他取引の概要に関する事項

法的形式: 株式譲渡

2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年10月10日

株 式 会 社 ラ ン ド

取 締 役 会 御 中

### 監査法人元和

指定社員 業務執行社員	公認会計士	星 山 和 彦
指定社員 業務執行社員	公認会計士	加 藤 由 久

当監査法人は、金融商品取引法第 193 条の 2 第 1 項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ランドの平成 25 年 3 月 1 日から平成 26 年 2 月 28 日までの連結会計年度の第 2 四半期連結会計期間（平成 25 年 6 月 1 日から平成 25 年 8 月 31 日まで）及び第 2 四半期連結累計期間（平成 25 年 3 月 1 日から平成 25 年 8 月 31 日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ランド及び連結子会社の平成 25 年 8 月 31 日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第 2 四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 強調事項

継続企業の前提に関する事項に記載されているとおり、会社は依然として既存のプロジェクト資金等については、物件の販売スケジュールに合わせて返済条件の見直しを行うことにつき、取引金融機関等に協力を要請している状態である。そのため、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しており、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる。なお、当該状況に対する対応策及び重要な不確実性が認められる理由については当該注記に記載されている。四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成されており、このような重要な不確実性の影響は四半期連結財務諸表に反映されていない。

当該事項は、当監査法人の結論に影響を及ぼすものではない。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 . 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2 . 四半期連結財務諸表の範囲には X B R L データ自体は含まれていません。